

今日のキーワード ヒット商品番付、注目は「インバウンド消費」(日本)

ヒット商品に関するランキングは、その時々流行や経済情勢を映す指標として注目され、複数の企業や団体が発表しています。例えば、日本経済新聞社は「日経MJヒット商品番付」として、消費動向や世相を踏まえて、売れ行きや開発の着眼点、産業構造や生活者心理に与えた影響などを総合的に判断し、相撲の番付になぞらえたランキングを発表しています。

ポイント1 2014年の横綱は、「インバウンド消費」と「妖怪ウォッチ」

政府による誘致政策と円安が外国人観光客の消費を後押し

- 「日経MJ2014年ヒット商品番付」では、東は「インバウンド消費」が、西は「妖怪ウォッチ」が横綱となりました。「インバウンド消費」とは、訪日外国人旅行(インバウンド)による消費のことです。訪日外国人数は、2014年1月から10月までの累計で1,100万9,000人となり、すでに昨年の年間実績を上回りました。また、10月からは外国人観光客向けの免税品目が拡大され、10月の外国人観光客による百貨店売上高は前年同月比2.2倍となりました。アベノミクスが掲げる2020年の外国人旅行客2,000万人の目標に向けた政策や円安を追い風に、「インバウンド消費」は今後も活況が期待されます。

ポイント2 前頭には「NISA」と「ふるさと納税」

消費税増税もあり、制度活用に注目集まる

- おカネ関連では、東は「NISA」が、西は「ふるさと納税」が前頭にランクインしました。「NISA」は、今年1月にスタートした少額投資非課税制度の愛称です。1人毎年100万円までの株式や公募株式投資信託の分配金や譲渡益が条件付きで非課税となります。「ふるさと納税」は、個人が自治体に2,000円を超える寄付を行った場合、所得税と住民税が軽減される制度です。自治体は生まれ故郷以外でもよく、「ふるさと納税」をすると、特産品や工芸品などがもらえることから人気です。
- 消費税増税によって消費の回復が弱く、「格安スマホ」(関脇)や「ちょい飲み」(前頭)もランクインしました。引き続き節約志向も垣間見えるなか、「NISA」や「ふるさと納税」は時代に即して、制度を活用しようと人気となっているようです。



今後の展開 再増税延期や賃上げの動きによって、消費者心理の好転に期待

■暖冬の予報から年末の消費には厳しさも

「アナと雪の女王」(大関)のヒットはありましたが、気象庁によると今年は暖冬が予想され、冬物商戦は厳しいかもしれません。一方、円安基調が見込まれることから、外国からの消費には今後も期待したいところです。

■再増税延期や賃上げ動向に期待

景気回復が足踏みするなか、消費税再増税の延期や引き続き賃上げの動きが見られることは消費者心理にプラスと考えられます。年末の衆議院選挙では、景気回復への具体的な政策が示され、先行き不透明感が払しょくされることに期待です。

ここも
チェック!

2014年11月26日 訪日外国人数(日本)

2014年11月20日 最近の指標から見る日本経済(2014年11月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。